



初等部だより 1月号

鎌倉女子大学初等部

令和5年1月6日

第9号

## 明けましておめでとうございます

部長 勝木 茂

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

子どもたちをはじめ保護者の皆様にとって、健康で安全な、そして、穏やかな日常が戻って来る一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



【本館5F多目的学習室から臨む富士山】

本日、「みらいスクールステーション」を使い、全学級にリアルタイムの映像配信による3学期始業式を行いました。初等部の子どもたちには、まだ一部の制限はあるけれども、みんなで協力しながら工夫して、明るく楽しいみんなが元気になる初等部にしていきたいと思いますという話をいたしました。

今年もこれまで同様「ていねいできめ細やかな授業」を行い、子どもたちにとって出来るだけ充実した初等部での生活となるよう職員一同、努力していききたいと思います。

さて、少し前になりますが、昨年12月12日(月)6年生を対象に初等部ならではの「入試激励会」を実施いたしました。今年は、3年ぶりに「オンライン」では無く、松本講堂にて対面形式で行いました。

「入試激励会」は文字通り、中学受験や中学入学を間近に控えた6年生を教員全体で元気づけ、勇気を与え、励ます会です。会では、教員の代表として、これまでの学級担任(低学年や中学年時)が一人ずつ前に出て6年生を激励いたしました。激励の仕方は、それぞれ個性豊かなものでしたが、どの先生の言葉にも深い愛情を感じました。(手前味噌です

が・・・)

12歳の子どもにとって中学受験は結構大変です。もちろん、これからの人生において入学試験、入社試験、資格試験、検定試験・・・等々、それらを避けて通ることは難しくうです。

ですが、個人差こそあれ思春期の入り口である12歳、大きなプレッシャーや揺れ動く不安の中で、毎日、毎日、がんばっているのは紛れもない事実です。

先ずはそのこと自体に敬意を表し「そうだね。大変だよ。分かっているよ、その大変さ」「みんなは一人じゃないよ」「少なくとも初等部の先生たちは、心より励まし応援しているよ」このようなメッセージを全力で伝える会が初等部ならではの「入試激励会」です。

会の終わりには、オリジナルの初等部鉛筆を一人ひとりに渡し、激励を続けながら子どもたちを松本講堂から送り出しました。中には感極まって泣いている子やそれを受け止めている先生もいました。



【入試激励会の様子】

新しい年となりましたが、新型コロナをはじめとする感染症対策はまだまだ必要です。対策を徹底するには、保護者の皆様のご協力が不可欠です。これまで同様、登校前のご家庭での検温をはじめとするお子様の健康観察を十分に行っていただき、風邪症状(発熱、咳、喉の痛み等)がある場合は医療機関での受診やご自宅での休養などをお願いいたします。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。